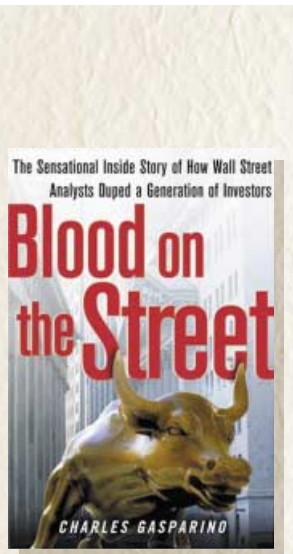


### 制度と文化 ―ウォール街と兜町―

「組織を組織たらしめている固有の文化は、実際には、組織を取り巻く制度的な環境から大きな影響を受けている」(佐藤、山田『制度と文化』)。

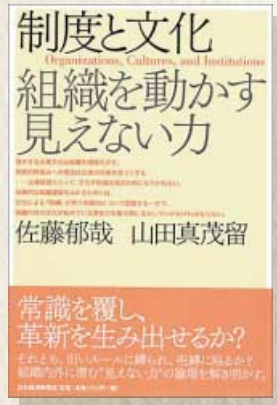
米国の投資銀行組織は、それを取り巻くウォール街の貪欲に金銭的果実を追求する文化と、ルールを破る



### Blood on the Street

Charles Gasparino  
Free Press  
2005

のフォーカスを、この二つの制度的環境の隙間で競争が少なく超過利潤が期待できる分野に絞る。このような組織を日本人が敵視して、「ハゲタカ」と呼ばうと、「ハゲタカ」的行為自体がウォール街の制度と文化を体現したものである。彼らにはなんら恥じることはない。しかし、日本の金融機関は「ハゲタカ」と呼ばれた瞬間に、日本の制度と文化の中では仲間として受け入れてもらえなくな



### 制度と文化

#### 組織を動かす見えない力

佐藤郁也、山田真茂留  
日本経済新聞社  
2004年9月

ウォール街のさまざまなスキャンダルを読者の前に明らかにしてきたガスパリンは、近著『Blood on the Street』の中で、ウォール街のプレーヤーたちがいかにルールを踏みにじり、投資家を騙すことで自らの貪欲を追求し私腹を肥やしていったかを生き生きと描いている。IT・通信ブームの中で頭角を現したウォール街の著名アナリストたちが、本来の投資家にならずに中立的投資情報を伝える立場から、

書から、金銭だけが成功の証である貪欲なウォール街の組織と文化の実態とその問題点を実感できる。  
気鋭の組織学者の手になる著書『制度と文化』は、ウォール街と兜町に見られるような、そこで優勢な制度と文化が組織を動かす役割を分析するための枠組みを、分かりやすく読者に指し示す。内容はかなり高度の理論を含むが、叙述が簡潔で、このような本をじっくり読めば、米

ものを厳しく監視する規制や制度により成り立っている。一方、日本の証券会社組織は、それを取り巻く兜町の人間関係や貸し借りに基づく企業文化と、後追いで海外から導入してきたさまざまな制度や規制により成り立っている。前者の世界を支配するものは性悪説である一方、後者においてはどちらかといえば性善説の文化が環境を支配する。

米国の投資銀行は、日本での業務

る。ライブドアはそのような隙間に米国の投資銀行の流儀を持ち込み、若者の文化を体現したスタイルで人々を魅了した。しかし、よく考えればM&Aの規制や制度も不備で、ルールを破るものを取り締まる組織も十分に発達していない日本の状況で、このような敵対的M&Aが増えていくことは考えにくい。

ウォールストリート・ジャーナル紙の敏腕記者として、90年代以降のウ

投資銀行部門の引受業務を拡大し組織の利益を極大化する利益相反行為の中にいかに簡単に走っていったかを、次々と具体的に暴いていく。米国のウォール街の本質が、ルールをかいくぐる貪欲なプレーヤーたちと、これを摘発して自らの名を上げようとする規制当局との間の競争と、その成功と転落の物語にあることが読者の前に明らかになる。読者はこの優れた調査報道の系譜の本

ででき上がったルールや制度をそのまま日本に導入することには多くの問題があり、場合によっては間違ったことになることが理解できる。アメリカで一時代前にはやられたボイズンビルやホワイトナイトなどの言葉をもてはやす前に、なぜウォール街で80年代に敵対的買収の仕組みが出てきたのか、その背景となるウォール街の制度と文化をよく理解する必要があることを、本書は我々に教えている。